日野郡農林業の概要

平成２６年１０月

鳥取県西部総合事務所
日野振興センター日野振興局

表紙写真：水稲（江府町）と「日野郡の米」ロゴマーク（H２３年日野郡産米レベルアップ推進協議会製作）

目次

ページ

１　農業マップ　……１

２　林業マップ　……３

３　農業の現状と取組

（１）　就農構造……５

（２）　担い手の状況……６

（３）　土地利用の状況……７

（４）　農業基盤の整備状況……７

（５）　主な農畜産物の生産販売状況……８

（６）　特別栽培農作物等の取組状況……１１

（７）　鳥獣被害と対策……１２

【参考データ】農業産出額及び生産農業所得……１３

４　森林・林業の現状と取組

（１）　日野郡の森林の現状……１４

（２）　間伐の推進……１５

（３）　木材価格の推移……１６

（４）　地域材の供給……１４

（５）　森林路網の整備……１７

（６）　しいたけの生産……１８

（７）　日野郡内の原木の流れ（資料１）……１９

５　日野振興センター農林関係担当課　……２０

2　林業マップ

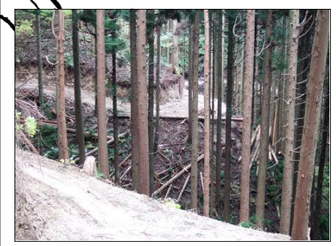
【日野川の森林木材団地】
　日野川流域の総合木材流通加工拠点。㈱オロチ、㈱米子木材市場、山陰丸和林業㈱が進出。
（日南町下石見）

【日野川流域材の活用】
　地元のスギを使用したLVL（単板積層材）製造工場が完成。H20.4から操業開始した。
（日南町下石見　㈱オロチ）

【森林環境保全税の活用】
　放置され手入れができていない森林を強度間伐し、公益的機能の回復を行っている。

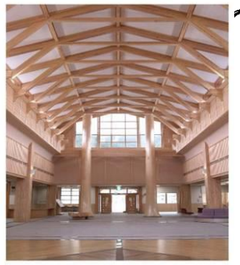
【とっとり共生の森】
○天然水の森　奥大山（江府町）
…サントリー(株)
○ごうぎん希望の森・奥大山（江府町）
…山陰合同銀行
○とっとり日通の森（日南町）
…日本通運(株)
　県・市町村が企業と地元の架け橋となってできた共生の森において、森林の保全活動、体験学習を行っている。

【公共事業での木材利用】
　木材の需要拡大のため、行政が率先して木材を使う工夫を行っている。林道では法面の草抑えとして利用している。
（日南町上萩山林道窓山線。左は(株)オロチが排出する剥き芯を利用。）



【板井原県有林】
　537haの森林。森林認証（SGEC）をH16年に取得し、環境に優しい施業を実践。H22にカーボンオフセットを推進するため「鳥取県県有林J-VERプロジェクト」の認証を受け、企業等に販売している。
（日野町板井原）

【低コスト林業モデル団地】
　施業の団地化、路網の高密度化と崩れにくい作業道を組み合わせ、伐採搬出コストを削減するためのモデル的取組みを行っている。
（日南町下石見）



【日南町庁舎・日南小学校】
　地域で生産・加工された木材を使用した木造公共施設。地域材利用のシンボル。日南小学校には（株）オロチのLVL使用。
（日南町霞）

【林道の整備】
　宝仏山及び窓山周辺の森林整備を進めるため林道を開設している。完成した林道は、森林に親しむ道としても広く利用されている。（日野町金持）

【竹炭・竹酢液の生産】
　地域の資源である竹を有効活用に取り組んでいる。H18年には県内初となる木竹酢液認証協議会の品質認証を取得している。
（江府町柿原　柿原炭生産組合）

1　農業マップ

【夏秋トマト】
　冷涼な気候を活かした美味しいトマトが生産されている。中古ハウスの有効利用、販売対策等を積極的に行っている。
　新たに平成23年5名、平成24年は1名、平成26年は1名の農業研修生が、研修を終えて栽培に参入している。（日南町）

【日野郡の米】
　日野郡はおいしい米の産地として知られる。（「米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」の都道府県部門内での金賞受賞者あり）
　郡内では、さらにおいしい米を作る方法の研究に取り組むグループ等が立ち上がっている。

【直売所から始まる地域活動】
　学校給食への農産物供給など、地産地消活動の拠点となっている。
（江府町　みちくさ）

【奥大山ブル-ベリーファーム】
　西日本でも最大規模の観光農園として知られ、6次産業化（農業者が加工品の関係・販売等をすること）も進めている。（江府町　笠良原地区）

【ブロッコリー】
　県内西部産地のリレー出荷の中で冷涼な気候を活かし、比較的高温期の出荷が期待されている。

【農家レストラン】
　アンテナショップおよび地域コミュニティの拠り所を目指している。
（日南町　ホームランド多里、アメダス茶屋）

【そば】
　郡内各地でそばの栽培が盛んに行われ、土地利用型作物として重要な位置づけとなっている。

【夏秋ピーマン】
　冷涼な気候を活かし、夏秋ピーマンの栽培が行われている。

【江府町のコンニャク栽培】
　中山間地域の新たな作目としてコンニャク産地づくりに取り組んでいる。

【日南高原朝どれ野菜生産部】
　少量多品目の新鮮な野菜や山菜を持ち寄り、岡山県方面のスーパーマーケットに直送している。

【和牛放牧場】
　5月～10月にかけて和牛の放牧により、和牛農家の手間が減り、牛の健康も増進されている。

【白ネギ】
　冷涼な気候を活かした夏ネギ栽培がさかんである。
　栽培経験の浅い生産者を対象に栽培基礎講座を開催している。

【地域産物を活用した加工品開発】
　農産物の資源や伝統を活かした加工品づくりが盛んである。

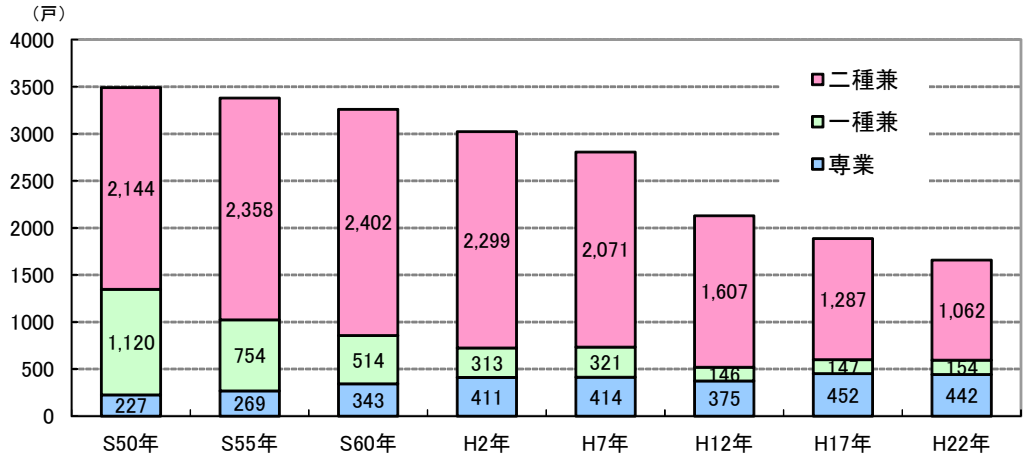
　加工の目玉は鈴原糯（すずはらもち）。栽培しにくい品種だがモチ質は抜群！
（日野町　大夢多夢）

　地域特産品のトマトを使ったトマトジュースは、定評あり！（日南町）

1　農業の現状と取組

(1)農業の就業構造

日野郡専業兼業別農家戸数の推移

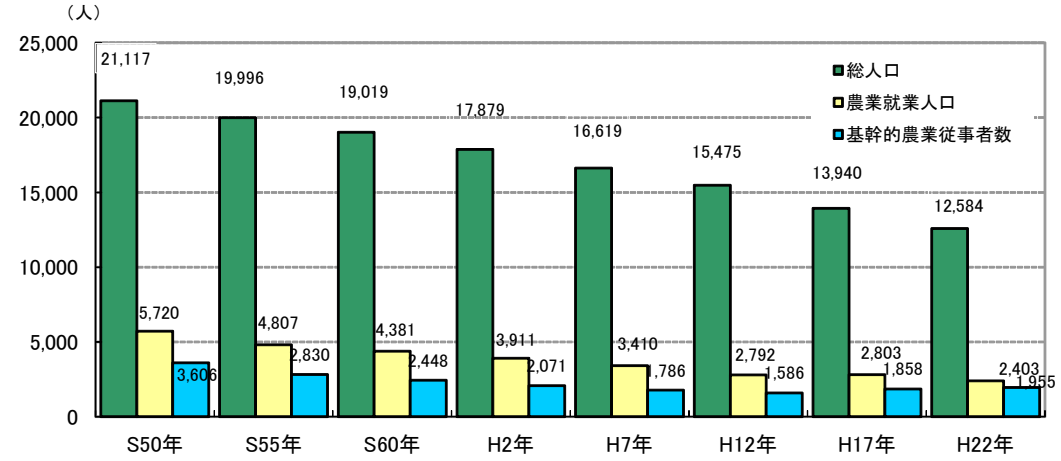


出展：農林業センサス（２０１０）

農家戸数は年々減少しているが、専業農家数は増加している。

《参考》

日野郡の総人口、農業就業人口、基幹的農業従事者数の推移



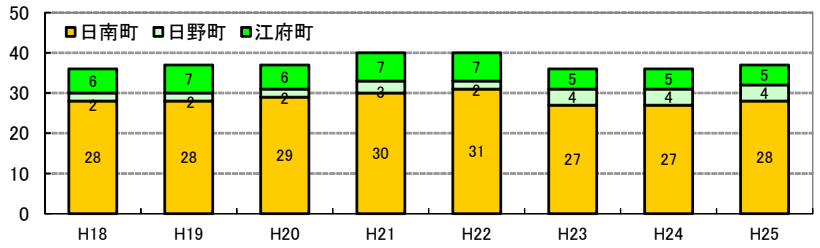
出展：農林業センサス（２０１０）及び鳥取県勢要覧

注１）農業就業者人口とは、自営農業従事者のうち、農業が主である者（兼業で農業が主である者も含む）をいう

注２）基幹的農業従事者数とは、農業就業人口のうち、ふだん仕事として農業に従事している者をいう

(2)担い手の状況

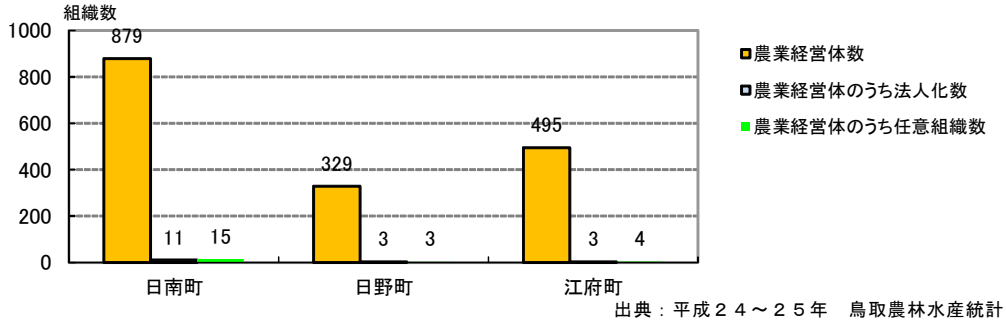
認定農業者数の推移



※日野振興局調べ

近年の認定農業者数は、新規認定による増加と、高齢化により再認定の見送りによる減少が拮抗し、ほぼ横ばいとなっている。

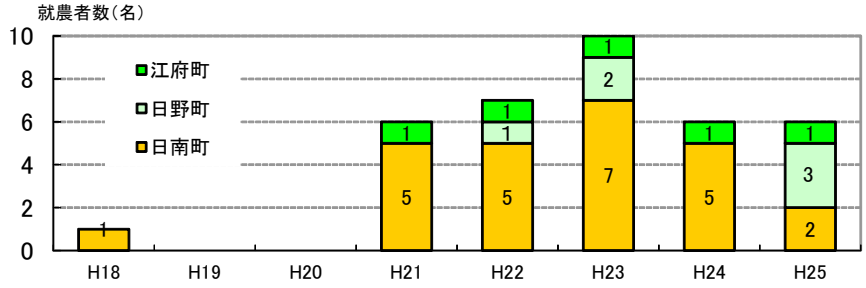
農業経営体数（平成22年度）



出典：平成２４～２５年　鳥取農林水産統計年報　中国四国農政局統計部

郡内３町の組織経営体数は少ないが、近年は、高齢化による労力不足の対策として組織化を検討する動きがある。

新規就農者の推移



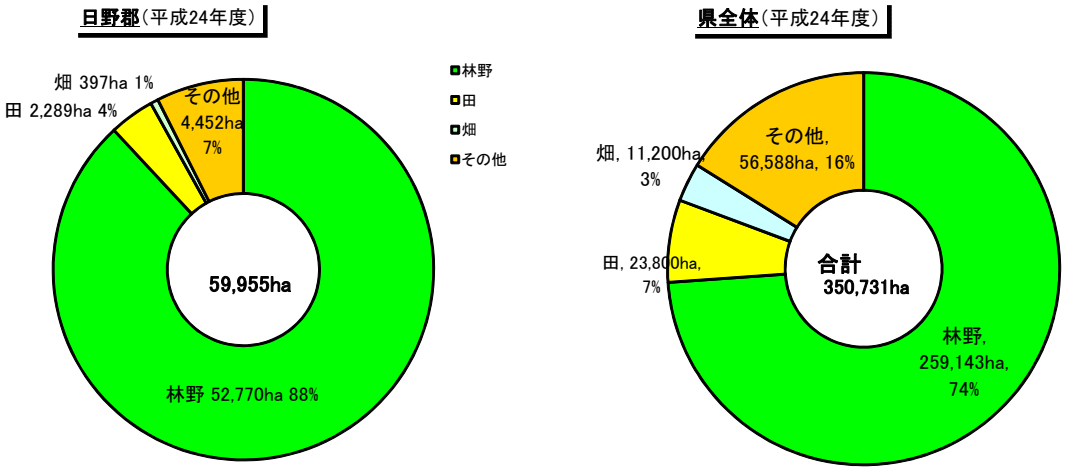
※経営支援課調査取りまとめ（平成２６年度）

平成２５年度の新規就農者数は日南町２名（うち法人等就業者１名）、日野町３名（うち法人等就業者２名）、江府町１名（うち法人等就業者１名）の６名となっている。

新たな就農形態としてIJターンによる就農がみられる。

【参考】
〇日南町においては、平成21年度から地域振興公社（平成25年4月1日から「一般財団法人エナジーにちなん」へ解散再設立）が主体となり2年間の農業研修制度を開始。
平成21年度：8名研修　⇒うち7名が平成23年度より就農。
平成22年度：3名研修　⇒うち1名が平成24年度より就農。
平成23年度：1名研修
平成24年度：3名研修　⇒うち1名が平成26年度より就農。
平成25年度：2名研修　⇒うち2名が平成27年度より就農予定。

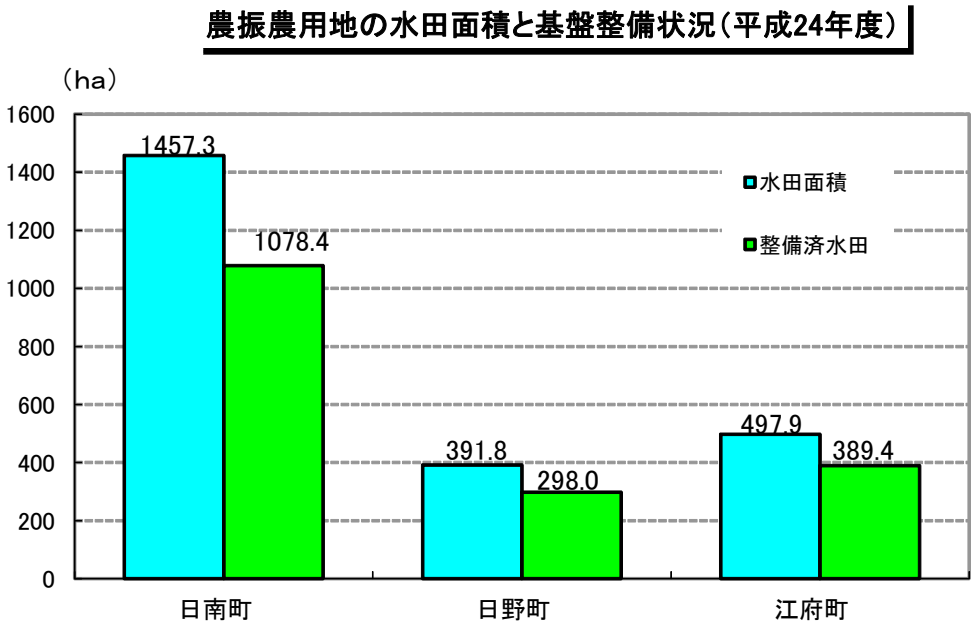
(3)土地利用の状況



出典：鳥取県林業統計、及び 鳥取農林水産統計年報　中国四国農政局統計部 平成24年～25年

林野率は８８％と、県の７４％に比べて高い。

(4)農業基盤の整備状況



出典：平成２５年度ほ場整備率調査結果（農地・水保全課）

日野郡の水田整備率は、日南町７４％、日野町７６％、江府町７８％であり、県平均（８３％）を下回っている。

(5)主な農畜産物の生産販売と取り組み

①　水稲

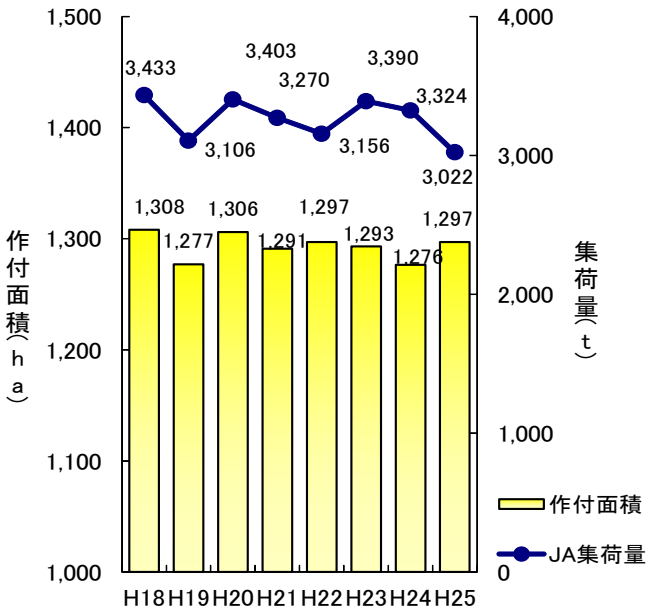
【栽培面積・集荷量】

日野郡の水稲（加工米等を含む）作付面積は、約１，３００ｈａである。主食用米のうちＪＡへの出荷量は、３，０００～３，４００ｔで推移している。また、近年は主食用米以外の加工米等の作付けが、増加傾向にある。

【生育状況・作況等】

平成２５年度は、猛暑の影響で低地では高温障害が発生した。　作況指数（平年＝１００）は１０１（県作況指数１０１、全国作況指数１０２）となった。

水稲の作付面積とJA集荷量の推移

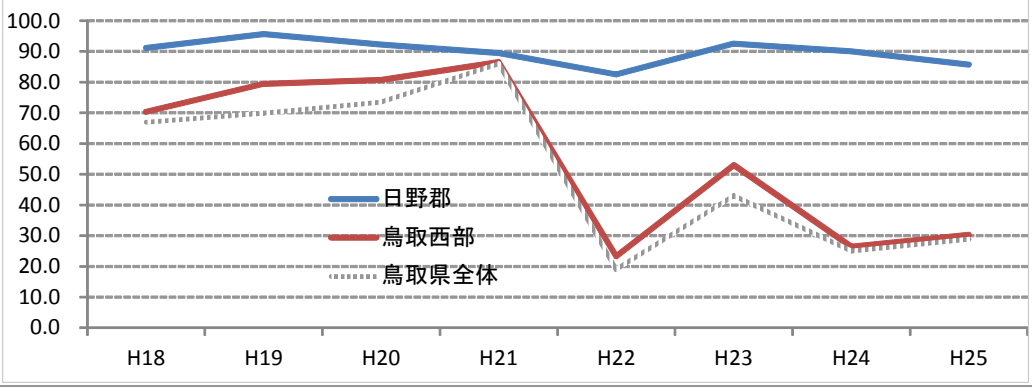


出典：集荷量は平成26年度JA鳥取西部資料より、
作付面積は鳥取県農業再生協議会総会（平成25年12月）資料より

【1等米比率】

平成２５年度の1等米比率は高温障害により県内の比率が低下するなか、日南町９０．５％、日野町７１．２％、江府町８０．８％と高い水準を維持している。（県平均２８．９％）

一等米比率の推移（うるち米）（％）



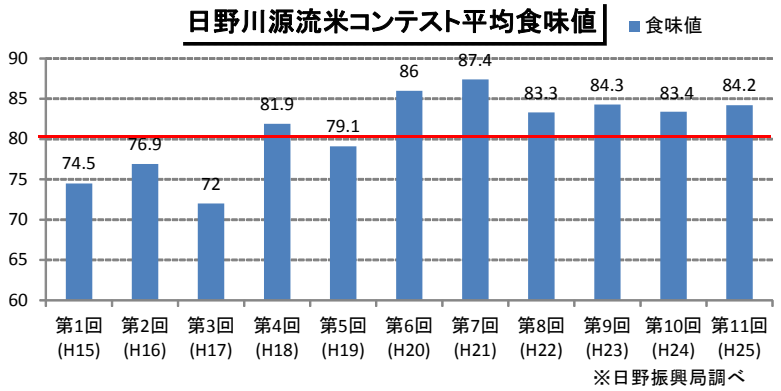
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
日野郡	**91.2**	**95.6**	**92.2**	**89.5**	**82.5**	**92.5**	**90.0**	**85.7**
鳥取西部	70.3	79.4	80.7	86.5	23.3	53.0	26.4	30.3
鳥取県全体	67.0	69.9	73.5	86.0	19.0	43.0	25.0	28.9

出展：農林水産省　米穀の農産物検査結果（平成26年3月31日速報値）、及び平成２６年度日野郡産米改良協会資料

【食味値向上の取り組み】

日野郡の特徴である「おいしいお米」をさらにレベルアップさせるため、平成１５年度から日野川源流米コンテストを開催。

平成２０年度以降は、食味値向上に対する農家の意識が定着し、コンテストにおける平均食味値は、おいしいとされる８０以上である。



② トマト

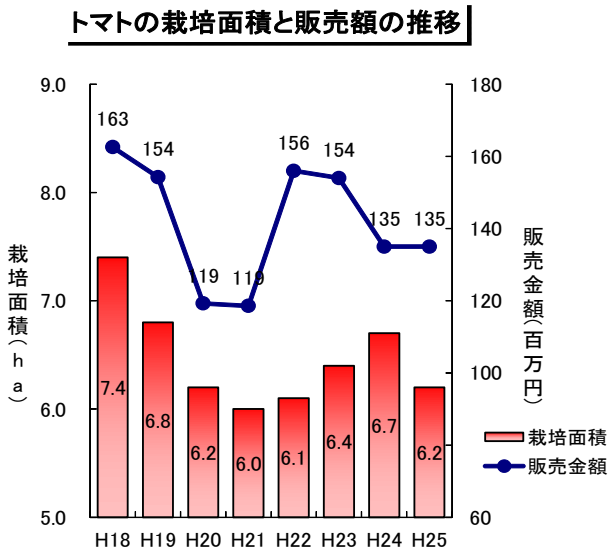
【栽培面積・販売額】

平成２５年度の栽培面積は、日南町５．５ｈａ、江府町０．７ｈａである。平成２３年度から新規就農者が加わったことにより、栽培面積は増加したが、平成２５年度は高齢化に伴う規模縮小の影響が大きく、再び減少に転じた。

平成２５年度の販売額は、苗不良による収量減少に伴い、減少した。

【産地の取り組み】

日南町では、平成２３年度に選果場が再整備（色彩選別機導入）された。



出典：JA鳥取西部資料（平成２６年度）

③ 白ねぎ

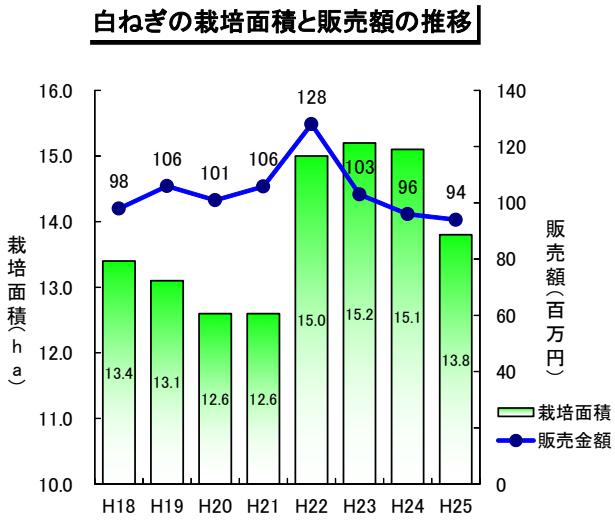
【栽培面積・販売額】

平成２５年度の栽培面積は、日南町６．５ｈａ、日野町３．０ｈａ、江府町４．３ｈａである。

販売額は近年の他県との競合による単価安、平成２４年は夏の猛暑による収量減少、平成２５年は高齢化による栽培面積の減少の影響等により減少傾向にある。

【産地の取り組み】

平成２４年度、鳥取西部農協中心に白ネギを振興するプランが作成され、生産者の確保や栽培面積拡大の取り組みが新たに始まった。

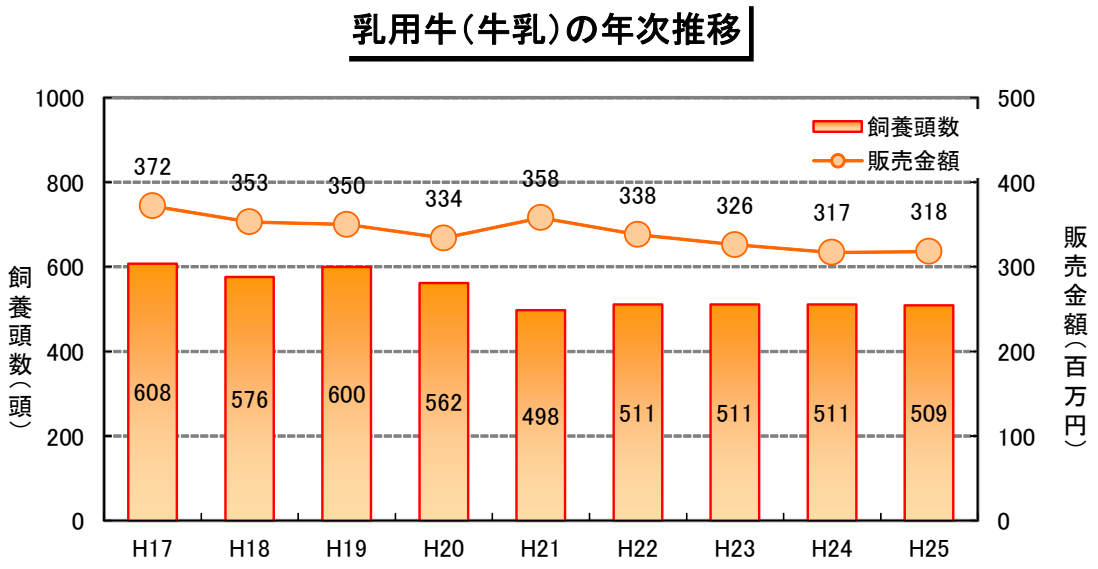


出典：JA鳥取西部資料（平成２６年度）

④　乳用牛（牛乳）

生乳は、平成１７年から全国的に生産過剰基調となり、平成１８、１９年に生産調整が実施されたため、日野郡内の飼養頭数は減少し、平成２０年に入って生産調整は解除されたが、現在も回復には至っていない。

近年の飼養頭数は、ほぼ安定し、販売単価が前年より上昇したため、販売額は前年より若干上昇した。



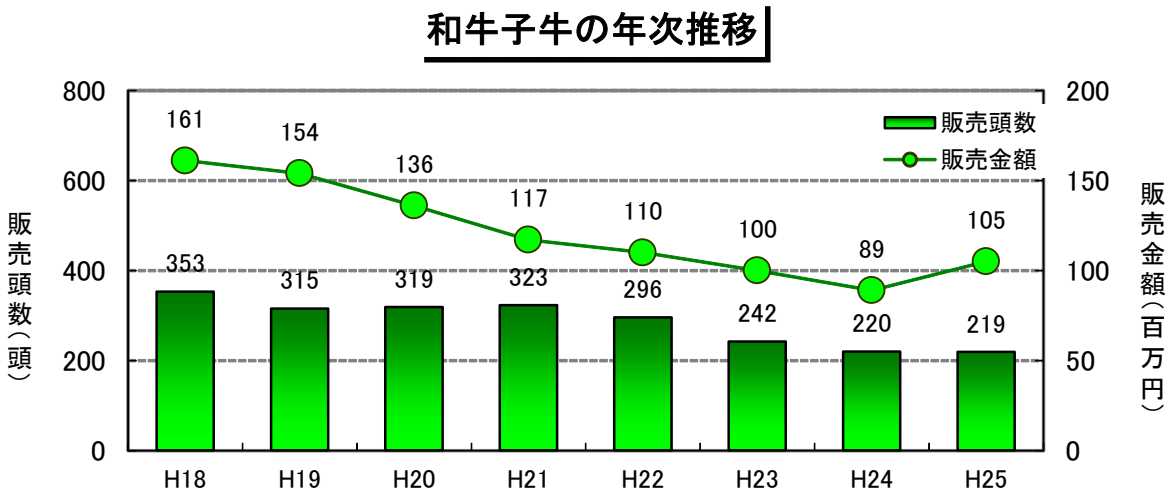
※大山乳業聞き取り

⑤　和牛子牛

日野郡内では、平成13年から取り組んだ優良雌牛導入事業の成果により牛群改良が進み、さらに全国和牛能力共進会が県内で開催された影響もあって、子牛の販売単価は高値で推移してきた。

平成２０年度の後半からは、景気の後退を反映して価格が低下していた。

平成２２年度以降は宮崎県の口蹄疫及び東日本大震災の影響により、全国的な素（もと）牛不足のため単価が上昇し、平成２５年度は単価が５０万円代で推移したため、販売金額は増加している。

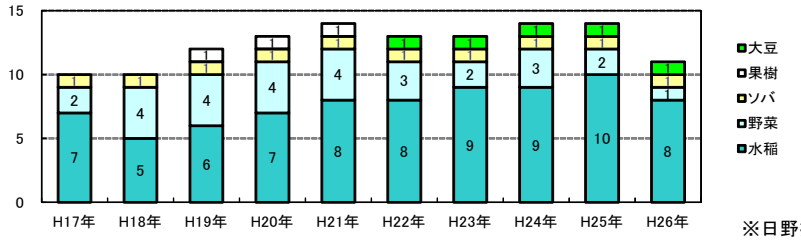


※畜産課聞き取り

(6)環境に優しい農業の取り組み状況

①　特別栽培登録件数

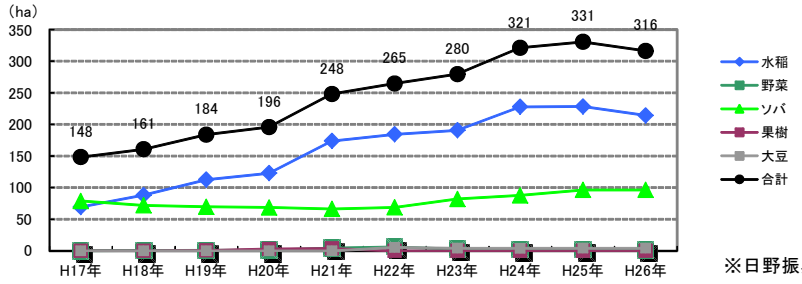
特別栽培登録件数



※日野振興局調べ（６月末集計）

鳥取県特別栽培農産物登録件数は、１０件から１４件の間で、推移している。

特別栽培面積



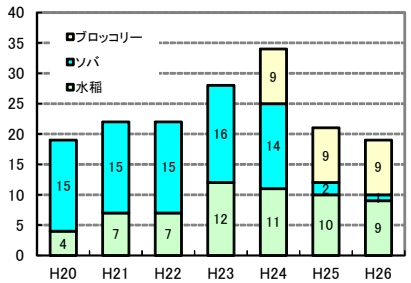
※日野振興局調べ（６月末集計）

面積は水稲、ソバが多い。栽培面積は、近年は横ばい傾向である。

注）特別栽培農産物とは、農林水産省が定めた「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に従って生産された、化学合成農薬および化学肥料の窒素成分を慣行レベルの５割以上削減して生産した農産物をいう。

②　持続性の高い農業生産方式に関する計画

エコファーマー認定数

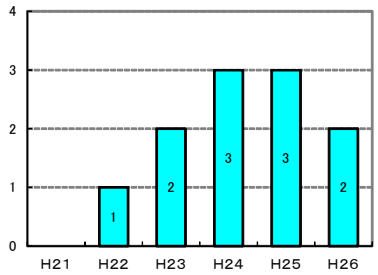


※日野振興局調べ（６月末集計）

近年のソバの再認定が進まず、認定数が、減少している。

③　有機JAS認定

有機JAS認定数



※日野振興局調べ（６月末集計）

平成２６年度は２名の生産者が水稲、エゴマで認定を受けている。

注１）持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律施行規則（平成１１年農林水産省令だい６９号）に基づき、たい肥その他の有機質資材の施用に関する技術、肥料の施用に関する技術、有害動植物の防除に関する技術からそれぞれ１つ以上の技術を組み合わせて行う生産方式をいう。

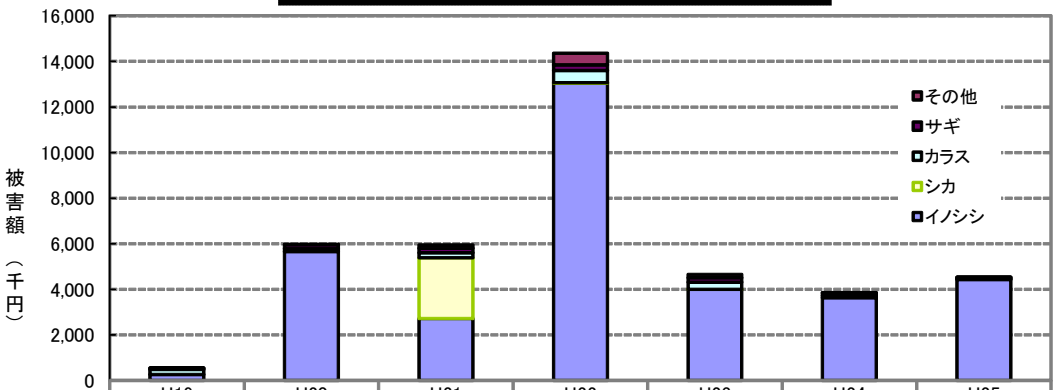
注２）エコファーマーとは、持続性の高い農業生産方式に関する計画の認定を受けた農業者をいう。

（7） 鳥獣被害と対策

① 被害額

日野郡内の野生鳥獣による農作物被害額は、平成２０年度以降約４，０００～６，０００千円であるが、平成２２年度は急増し１４，０００千円であった。被害のほとんどはイノシシの踏み倒しによる水稲の被害が占めている。

日野郡の野生鳥獣による農林業被害額（年度別）



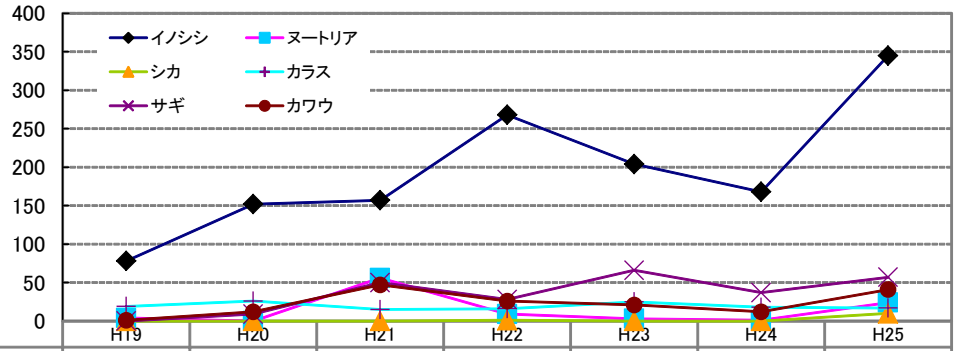
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
その他	12	6	137	501	135	2	5
サギ	61	165	202	258	206	119	55
カラス	212	137	225	526	308	92	30
シカ	0	0	2,661	14	4	0	0
イノシシ	269	5,657	2,719	13,054	3,996	3,629	4,436

※日野振興局調べ

② 有害捕獲許可による捕獲数

イノシシの捕獲数は平成１９年度以降増加し、平成２５年度は３４５頭と最も多かった。また、平成２５年度にシカが急増しており、今後の増加が懸念される。

日野郡の有害鳥獣捕獲数（年度別）



	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
イノシシ	78	152	157	268	204	168	345
ヌートリア	4	0	56	9	3	1	24
シカ	0	0	0	1	0	0	10
カラス	19	26	15	16	25	18	17
サギ	0	9	50	28	66	37	57
カワウ	1	12	47	26	21	12	41

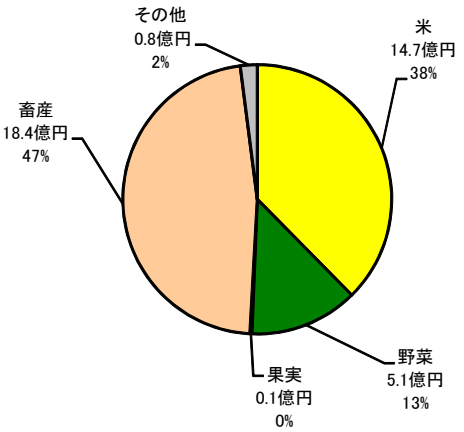
※日野振興局調べ

【参考データ】農業産出額及び生産農業所得

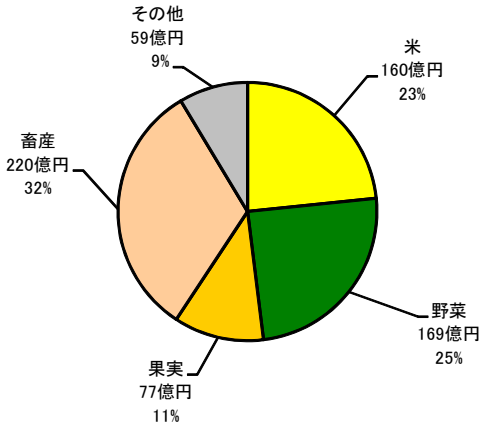
		農業産出額（上段：億円、下段：%）						生産農業所得		
		米	野菜	果実	畜産	その他	合　計	合計（億円）	農家1戸当り（千円）	耕地10a当たり（千円）
平成16年（日野郡）		14.9	6.7	0.1	21.1	1.6	44.4	14.2	548	52
		(34)	(15)	(0)	(48)	(4)	(100)			
平成17年（日野郡）		15.4	5.5	0.1	20.3	0.9	42.2	13.4	561	50
		(36)	(13)	(0)	(48)	(2)	(100)			
平成18年	日南町	8.8	2.8	0.1	15.5	0.4	27.6	7.9	674	52
		(32)	(10)	(0)	(56)	(1)	(100)			
	日野町	2.1	0.5	0	1.3	0.1	4	1.5	270	35
		(53)	(13)	(0)	(33)	(3)	(100)			
	江府町	3.8	1.8	0	1.6	0.3	7.5	3	450	40
		(51)	(24)	(0)	(21)	(4)	(100)			
	郡計	14.7	5.1	0.1	18.4	0.8	39.1	14.2	594	52
		(38)	(13)	(0)	(47)	(2)	(100)			
	県計	160	169	77	220	59	685	218	622	61
		(23)	(25)	(11)	(32)	(9)	(100)			
平成19年（鳥取県）		148	182	84	217	51	682	220	629	62
		(22)	(27)	(12)	(32)	(7)	(100)			
平成20年（鳥取県）		160	200	69	223	50	702	237	677	－
		(23)	(28)	(10)	(32)	(7)	(100)			
平成21年（鳥取県）		146	185	60	223	45	659	208	－	－
		(22)	(28)	(9)	(34)	(7)	(100)			
平成22年（鳥取県）		132	198	66	231	38	665	－	－	－
		(20)	(30)	(10)	(35)	(6)	(100)			
平成23年（鳥取県）		156	185	67	232	36	676	－	－	－
		(23)	(27)	(10)	(34)	(5)	(100)			

出典：第53～58次、及び平成23～24年鳥取農林水産統計年報（中国四国農政局鳥取地域センター）
なお、第56次から市町村別データは非開示。

日野郡農業産出額（平成18年度）



鳥取県農業産出額（平成18年度）



注）農業産出額とは、農業粗生産額をいう。

森林・林業の現状と取組

(1)日野郡の森林の現状

〇日野郡の林野面積は５２，７７０ｈａと総面積の８８％を占めている。

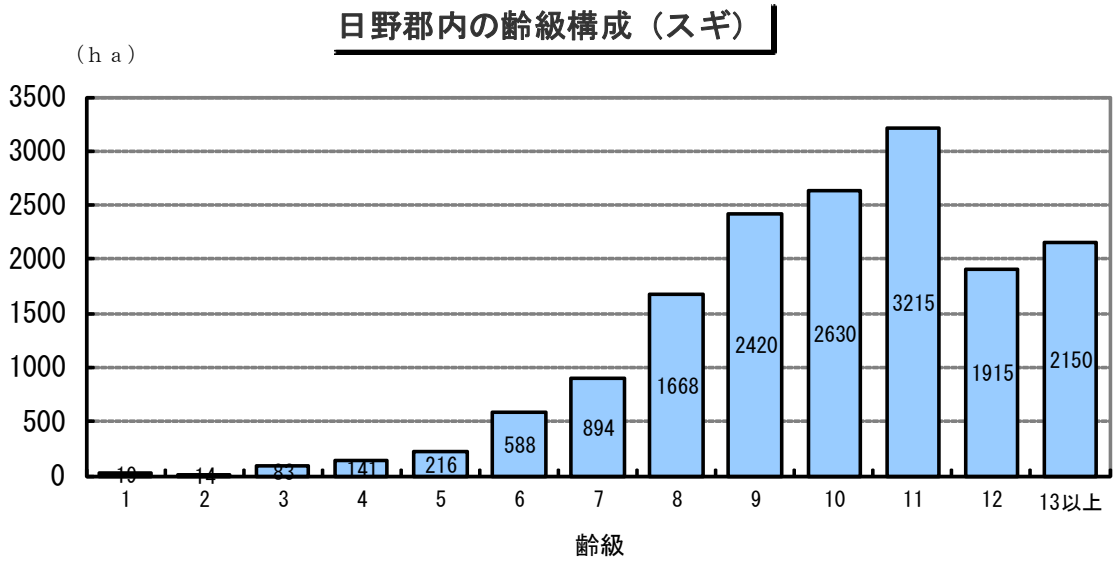
〇民有林のうちスギ・ヒノキ等の人工林は３１，１００ｈａで、人工林率は６２％である。

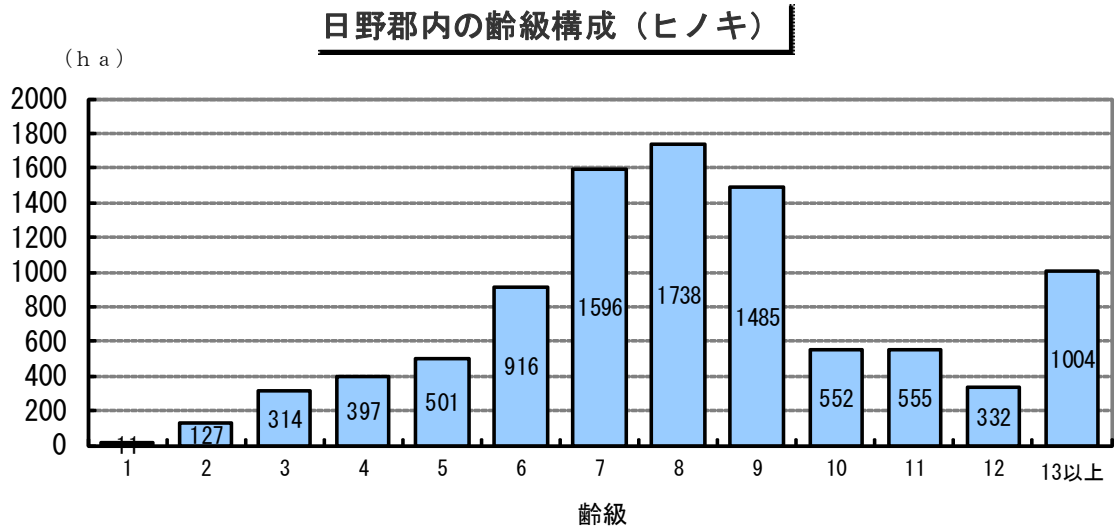
〇スギ・ヒノキの人工林資源は７から１２齢級に団塊的に存在しており、間伐等の保育とともに資源の有効活用が求められている。

単位：ｈａ、％

区分	土地面積	林野面積				民有林内訳			
		国有林	民有林	計	林野率	人工林	天然林	その他	人工林率
日南町	34,087	1,311	29,155	30,466	89%	18,301	10,554	300	63%
日野町	13,402	375	11,662	12,037	90%	8,027	3,430	206	69%
江府町	12,466	984	9,283	10,267	82%	4,772	4,260	251	51%
局計	59,955	2,670	50,100	52,770	88%	31,100	18,244	757	62%
全県	350,728	31,770	226,964	258,734	74%	123,494	96,448	7,433	54%

※出典：平成24年度鳥取県林業統計





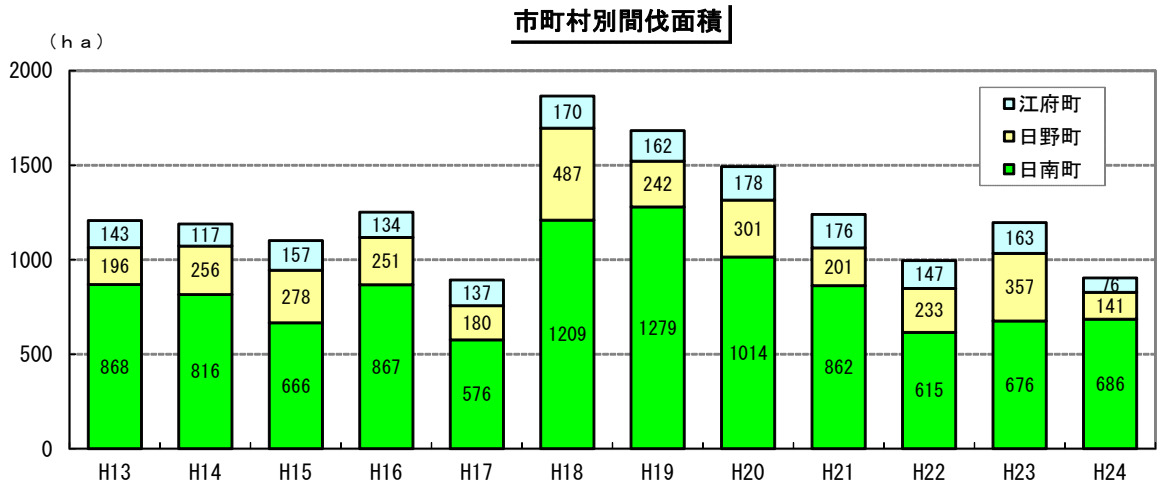
※出典：森林簿

(2)間伐の推進

○森林の適正な管理を確保するため、間伐の推進に取り組んでいる。

○間伐材の有効活用を推進するため、平成１３年度から「間伐材搬出促進事業」（単県）を実施し、間伐材の市場への運搬・出荷経費に補助してきた。平成２３年度日野郡では、対前年比１３９％となる約７万㎥の間伐材が搬出されており、以後、概ね同程度の間伐材が搬出されている。

○「低コスト林業推進事業」（国庫・単県）等を活用することにより搬出用機械の導入を支援し、搬出コストの低減を図っている。



※出典：日野振興局業務資料

間伐材搬出促進事業の実績

間伐材搬出促進事業の実績

		H13	H15	H17	H19	H21	H23	H24	H25
日野郡	材積（m³）	21,585	31,030	19,101	25,489	43,383	70,890	63,862	64,637
	金額（千円）	92,816	133,430	82,136	101,956	169,192	269,383	242,676	228,724
	県内ｼｪｱｰ（材積%）	63	70	63	60	50	46	46	41
全県	材積（m³）	34,212	44,173	30,485	42,226	86,600	154,120	139,186	159,068
	金額（千円）	147,111	189,941	131,086	168,905	337,739	585,653	528,734	561,573

※出典：日野振興局業務資料

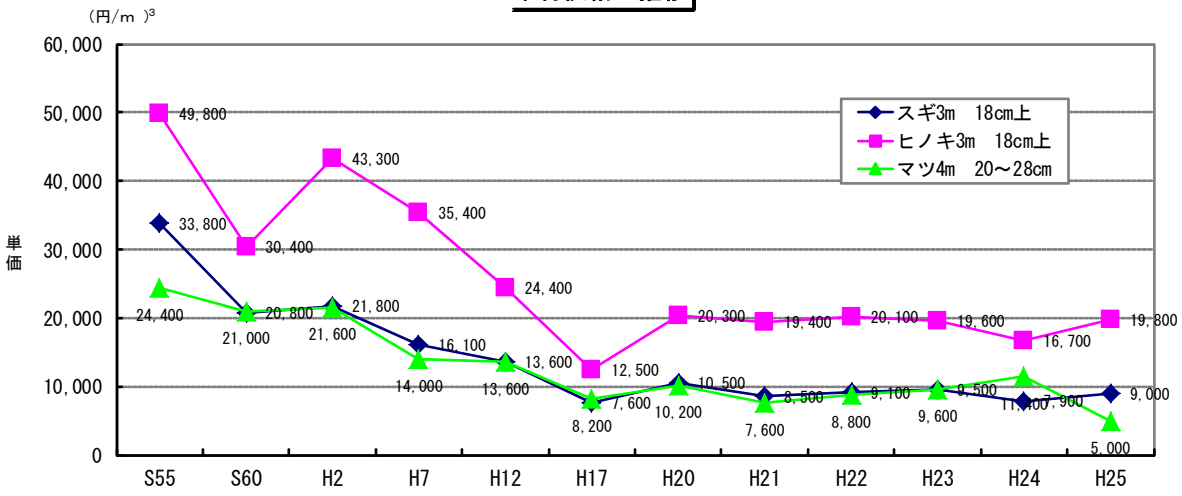
(3)木材価格の推移

○木材価格は最高値（昭和５５年）の約１／３で推移している。

○役物の需要減少、円高の影響により、価格が低迷している。

○近年、針葉樹合板の原材料が外材から国産材にシフトするなどの傾向が進み、価格に底打ち感も見られたが、直近では、一般材の供給増、未曾有の不況の影響等を受け安値低迷が続いている。

木材価格の推移



※出典：平成25年度鳥取県林業統計

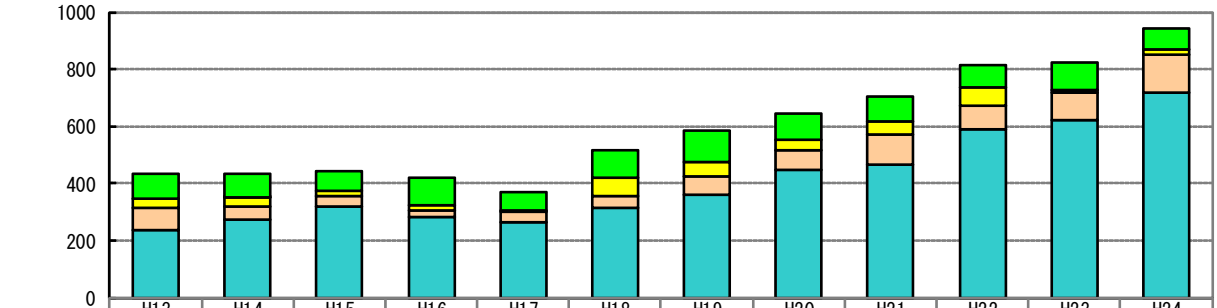
(4)地域材の供給

○引き続く材価の低迷を受けて、主伐(皆伐)を控える傾向に依然変わりはなく、間伐材の生産が中心となっている。

○日野郡の素材生産量は、「間伐材搬出促進事業」への積極的な取組により、平成１８年度頃から年々増加しており、平成２４年度には９万㎥を上回った。

○日野郡では、平成２０年の４月に操業を始めた、日南町の株式会社オロチ（ＬＶＬ製造工場）への安定供給を目指し、市場を介さないで直接納入するなど、安定価格、安定出荷の取組も見られる。

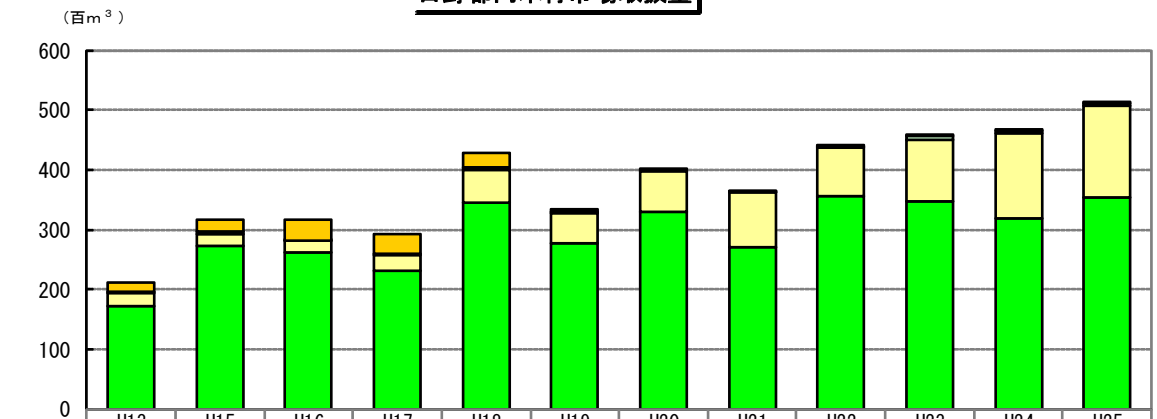
樹種別素材生産量



	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
広葉樹	88	82	69	98	67	94	109	91	85	80	97	73
その他針	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マツ	33	29	20	15	5	67	49	34	46	61	10	21
ヒノキ	80	49	35	24	33	43	67	69	109	85	96	132
スギ	234	271	320	283	266	312	359	449	464	589	621	717
計	435	433	444	420	371	516	584	643	704	815	824	943

※出典：平成25年度鳥取県林業統計

日野郡内木材市場取扱量



	H13	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
広葉樹	16	20	35	32	24	3	3	2	1	1	2	2
マツ	3	3	1	2	5	3	2	1	4	7	4	5
ヒノキ	21	20	20	27	54	51	68	91	80	103	144	154
スギ	172	273	261	231	345	276	329	271	356	346	318	353

※出典：日野振興局業務資料

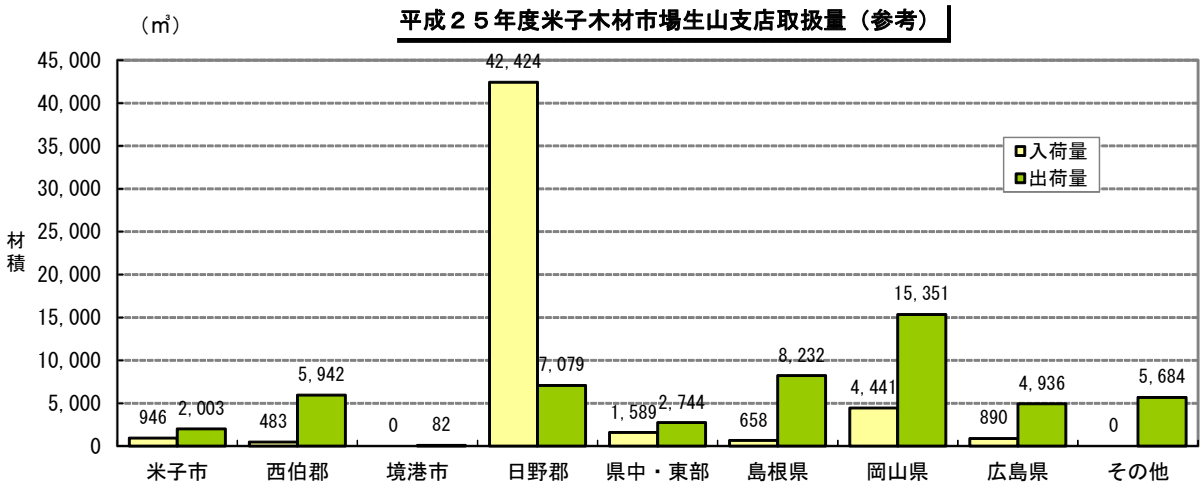
（注）日野郡内の原木の流れ

○米子木材市場生山支店の原木取扱量は、樹種別ではスギ６８％、ヒノキ３０％、広葉樹１％、マツ１％で、圧倒的にスギが多い。入荷先の８２％（Ｈ２５）が日野郡であることがその理由である。

○出荷先（買い方）としては、西伯郡（レングス）、日野郡（オロチ）もあるが、その多くは岡山県、島根県、広島県等の県外となっている。合板用として境港市（日新）へも出荷が始まっている。

○この様な中で、平成１２年から南部町で協同組合レングスがスギの三層クロスパネルの生産を始め、平成２０年からは日南町でオロチによりＬＶＬの生産が開始されたことにより、日野郡内で生産された木材が、県内で高次加工され、県外へ出荷される体制が整備された意義は非常に大きいものがある。

平成２５年度米子木材市場生山支店取扱量（参考）



※出典：日野振興局業務資料

(5)森林路網の整備

○日野郡内では、路網整備の骨格となる森林基幹道３路線（宝仏山１号、宝仏山２号、窓山線）の開設を進めている。

○「路網整備地域連携整備事業」（国庫）、林業再生事業（単県）等により、間伐など森林施業の推進や素材生産コストの低減に不可欠な作業路網の整備を進めている。

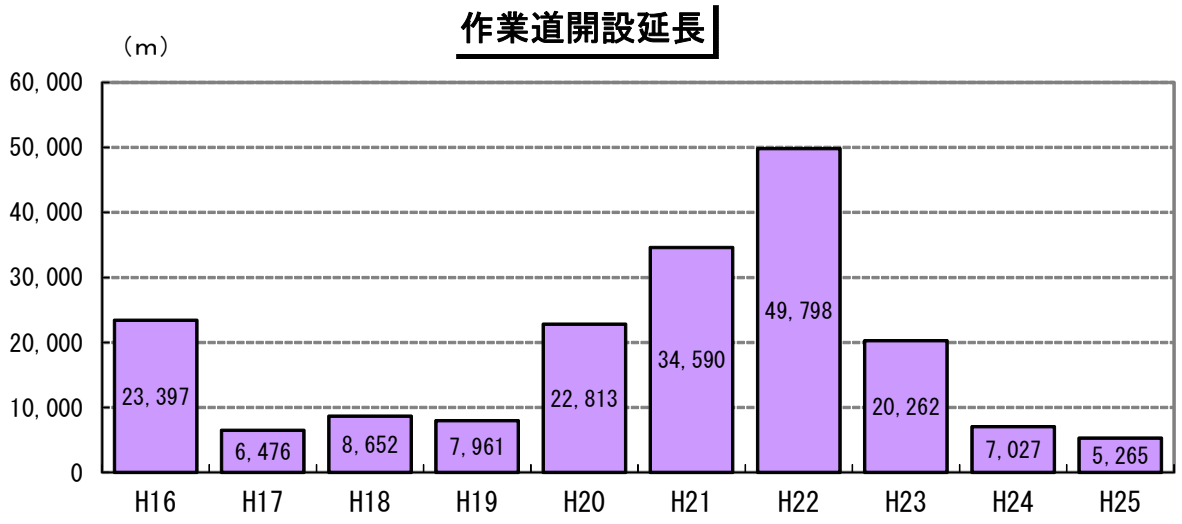
単位：ｍ

路線銘	位置	延長	事業費（円）	工期	開設済延長（H25末）	開設計画（H26以降）
森林基幹道宝仏山１号	江府町俣野～武庫	6,900	2,322,365	H元～H28	4,756	2,144
森林基幹道宝仏山２号	日野町金持	7,990	2,058,278	H元～H28	4,143	3,847
森林基幹道窓山線	日南町新屋～上萩山	17,233	4,323,960	H8～H41	8,683	8,550

※出典：日野振興局業務資料

○作業道は、平成２２年度までは補助事業による１０／１０助成により延長が伸びているが、平成２３年度以降は開設延長が伸び悩んでいる。

○一方、幹線路網となる林業専用道の整備を推進しており、平成２５年度には約６千メートルが開設されている。

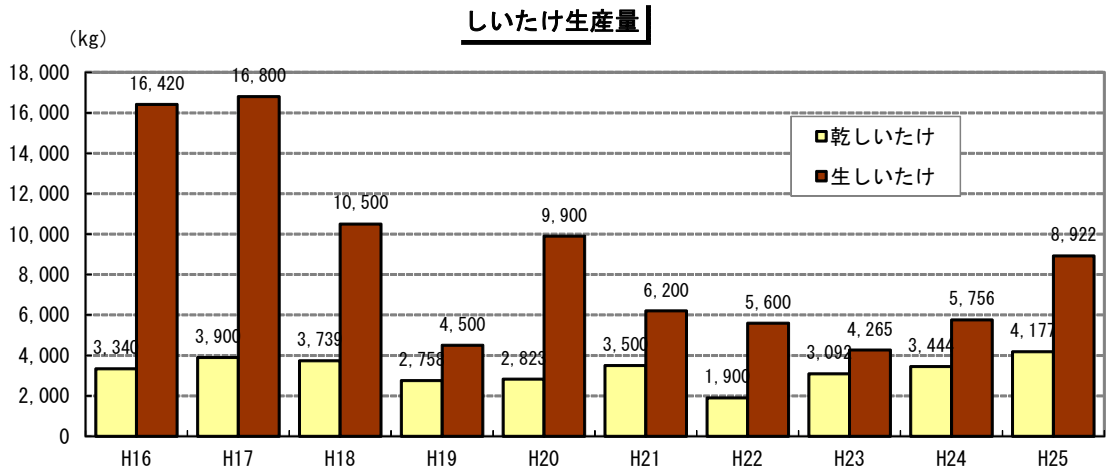


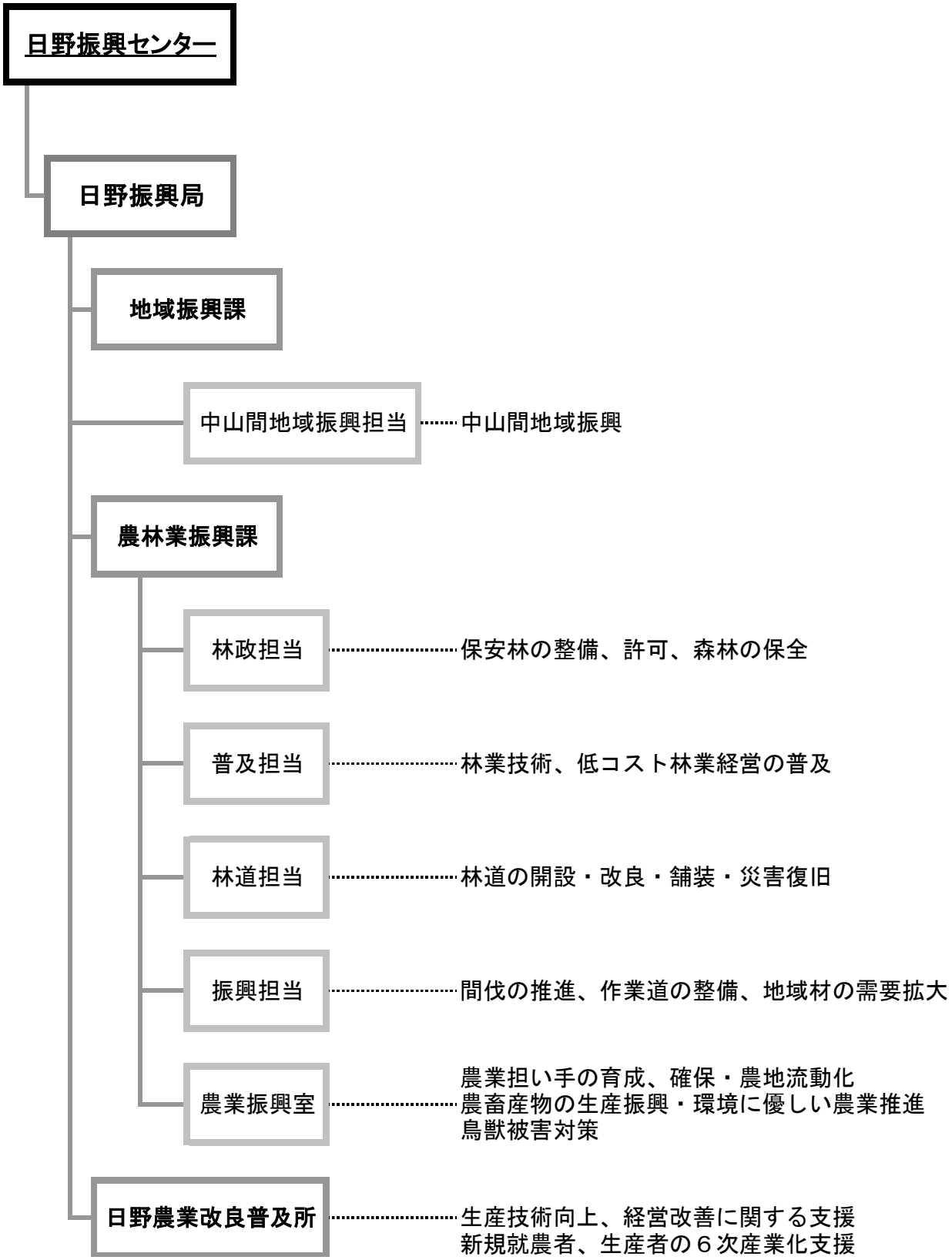
※出典：日野振興局業務資料

(6)しいたけの生産

○乾しいたけ生産は、近年の自然健康食品の嗜好の高まりなどを受け、比較的高値で安定して推移していたが、東日本大震災による風評被害により価格が下落した。また、生産者の高齢化と後継者不足、原木入手の困難化などから、生産量は停滞傾向にある。

○生しいたけの生産量は、菌床栽培に企業が参入するなどの動きがあるものの、平成２２年度までは減少傾向にあった。しかし、大口生産者の生産拡大、補助事業の導入により、平成２３年度からは上向いている。



※出典：日野振興局業務資料

5　日野振興センター農林関係担当課（平成２６年１０月現在）